

言語研究と統計 2017

2017年3月27日(月)～28日(火)

統計数理研究所 セミナー室1(3階) 〒190-8562 東京都立川市緑町10-3

プログラム

2017年3月27日(月)

開始	終了	発表者	タイトル	概要
1030	1040	開会		
1040	1100	小山 由紀江 名古屋工業大学	ESP コーパスの分析から ダイナミックアセスメントへ	これまで工学の専門学術論文および科学技術一般雑誌というように、ジャンルと難易度の異なる ESP コーパスを分析し、その結果を用いてテスト項目の作成を行い、Computerized Adaptive Test (CAT) を実施してきた。このことにより、ESP コーパスに基づく項目作成が CAT の内容的妥当性を担保することが示された。今回はさらに科学技術のレベルの異なるテキストを追加したコーパスを分析し、その結果をダイナミックアセスメントに生かす方法について議論する。
1100	1115	藤枝 美穂 大阪医科大学	医療系 ESP 語彙テストの 開発：リスニング項目の検討	ESP コーパスから抽出した語句を使ったリスニングテストの試行結果を報告する。
1115	1135	木村 哲夫 新潟青陵大学	受験者が目標正答率を選 ぶ多段階コンピュータ適 応型テスト	受験者が目標正答率を選ぶ多段階コンピュータ適応型テスト (multistage CAT: MCAT) を用意し、第1ステージ終了時に、受験者が第2ステージの目標正答率(TP)と問題数を選べるようにした。受験者は「難しい問題が出て問題数が少ないテスト」と「問題数が多くても易しい問題が出るテスト」のどちらを選ぶ傾向が強いかを調べた。
1135	1150	宮崎 佳典 静岡大学	コーパスを用いた技術英文 書作成援用ツールを用いた 実験とその評価	技術系の専門的な単語や表現を駆使した英作文をサポートする技術英文書作成援用 Web アプリケーションを開発している。本発表は、当該システムを用い、某大学理系学部の講義中に行った実験についてその結果ならびに分析・考察を報告するものである。
1150	1200	田中省作 立命館大学	構文構造の変化情報(構文 変化)が付与された校正英 文対データベースの試作	英語科学論文執筆時の英文の校正前後の構文構造と変化に関する情報(構文変化)を付与したデータベースの構築を試みている。本発表では、その基本アイデアと現状を述べる。
昼食 (50分)				
1250	1310	中野 智文 (株)VOYAGE GROUP	Wilson score interval を 使った信頼区間の応用	信頼区間推定に Wilson score interval を利用した応用についての報告。Wilson score interval は分布が 0 や 1 に近い場合でも正規近似の信頼区間と比べ正確で、exact 法と比べ SQL 上でも計算ができるほど容易でかつ平均的に正しい。
1310	1325	石川 慎一郎 神戸大学	X々型量語の構造・使用・ 意味特性	現代日本語書き言葉均衡コーパスの新聞・雑誌・白書・教科書データを用い、「人々」、「時々」、「我々」といった X々型量語について、高頻度語形を特定した上で、構造(品詞成分、反復要素同一性、モーラ数、後接構造)、使用(時代影響、ジャンル影響)、意味の3点に関して調査を行った。その結果、高頻度語形としては「人々」「様々」「年々」等があり、それらに基づく、X々型量語は、構造的には名詞反復形が多く、完全量語と部分量語のトークン比率はほぼ同等で、モーラ数は4が基本で、主格名詞として機能するものより形容詞(句の一部)や副詞として機能するものが多いことがわかった。また、使用特性として、全体の頻度は過去30年間で増加傾向にあり、白書や教科書ではそれぞれ特有の量語使用がなされていることがわかった。さらに、意味に関しては、「複数」が最も多く、「反復」、「個別」がそれに次ぐことが示された。また、先行研究で明示的に認定されていなかった用法として、レシピ等の中で語調を整えるための意味変化を伴わない量語使用が確認された。
1325	1340	中尾 桂子 大妻女子大学(短)	転成名詞の意味分類再考	転成名詞83語の意味上の分類を、使用頻度をもとに計量的に見直してみる。
1340	1350	李 楓 神戸大学	中国の大学におけるビジ ネス日本語教育の課題ー ビジネス日本語教材の語 彙検討に基づくー	近年、中日経済提携の緊密化に伴い、日系企業への就職が増えてきている。それに応じて、中国の大学の多くで、中上級の日本語学習者向けにビジネス日本語のクラスが開講されている。ただ、ビジネス日本語の指導については、明確な指導内容や指導方法が確立しておらず、多くの講師は市販の教材に頼っているのが現状である。この点をふまえると、中国のビジネス日本語教育の実際的内容は、使用される教材によって相当部分が決定されているものと思われる。 しかしながら、現在使用されている中国のビジネス日本語教材の言語的妥当性については、いまだ十分に解明されていない。そこで、研究の第一歩として、使用されている教材をとりまとめ、語彙の側面からその妥当性について検討を行った。結果として、教材におけるビジネス日本語彙には改善を要する点が存在することが確認された。

1350	1400	中西淳 神戸大学(院)	日本人英語学習者による前置詞使用の計量的分析—学習者コーパス分析の結果をふまえて—	本研究では、日本人英語学習者がどの程度前置詞を自然に使用できているか明らかにするため、大規模な作文コーパスを用いて、日本人英語学習者と英語母語話者の前置詞使用を計量的に分析した。まず、日本人学習者と英語母語話者を比較し、日本人学習者の前置詞使用傾向を特定し、次に、習熟度別に比較し、習熟度の上昇によってどのように変化するか調べた。その結果、日本人学習者と母語話者の前置詞使用は本質的に異なっており、習熟度が上昇しても恒常的に母語話者へ近づいていくわけではないことが明らかになり、現在の日本の英語教育における前置詞指導の課題が示唆された。	
1400	1420	浅野 元子 大阪大学(院)	医学論文考察部に学ぶ：論理展開の出現と特徴語についての検討	国際英語の使用例とされる代表的な医学誌の研究論文での考察部における「主な結果とその意義について述べる」「研究のまとめ」などの論理展開の出現順序と特徴語を検討する	
休憩 (10分)					
1430	1450	川瀬 義清 西南学院大学	日本語の助詞と構文—助詞「二」と「ヲ」の語順—	日本語は語順が自由であるといわれるが、動詞によりある程度好まれる語順がある。この発表では、日本語のヲ格と二格の両方をとる動詞を取り上げ、どの語順が好まれるかについて調査する。	
1450	1510	長 加奈子 福岡大学	多読教材に見られる関係詞節の分析	多読学習に用いられる教材に表れる関係詞節について、その分布について考察すると共に、日本語母語話者の使用状況と比較分析を行う。	
1510	1530	植田 正暢 北九州市立大学	二重目的語動詞 allow の第二目的語に生じる名詞について	Wierzbicka (1988)では、allow は refuse や deny とともに二重目的語構文の1クラスを形成する可能性があることが示唆されている。本研究発表では、BNCを利用して allow の第二目的語に生じる名詞の頻度を調査し、植田 (2014, 2015, 2016) で示した refuse と deny の調査結果との比較を試みる。Allow が refuse や deny と意味的に類似するのかどうかを検討する。	
1530	1550	木山 直毅 大阪グループ	英語の引用句構文に見られる動詞の特徴	英語において、直接話法には5パターンが存在する (i.e. SVQ, QSV, QVS, QSVQ, SVSQ)。このパターンには様々な要因が関わっていることが考えられるが、本発表では、その1つの要因として動詞の意味クラスが関わることを論じる。	
休憩 (10分)					
1600	1610	石井康毅 成城大学	日本人英語学習者が学習・使用する句動詞の抽出と分析	検定教科書と NICT JLE Corpus と ICNALE から構造上句動詞の可能性が高いパターンを抽出することで、日本人英語学習者が学習・使用する句動詞の頻度を明らかにし、日本人英語学習者がうまく使えていない句動詞を明らかにすることを試みた。	
1610	1625	内田 諭 九州大学	対応分析と FrameNet を用いた共起語の意味分析：状態変化を表す連結動詞を例に	本発表は、状態変化を表す動詞 (become, get, grow など) を例に取り、そのコロケーションの違いについて対応分析とフレーム意味論の観点からせまるものである。	
1625	1640	大谷 直輝 東京外国語大学	情報構造を伝える項構造構文について	本発表では、BNC を用いて spray/load 構文と clear 構文を網羅的に調査することで以下の二点を明らかにする。①両構文に見られる構文交替が、新旧情報のような談話的な特性によって動機づけられている。②表層的な語の分布に基づく一般化によって、構文交替はより正確に捉えられる。	
1640	1655	森下 裕三 神戸大学	英語の多義語についての質的分析と量的分析	従来の言語学における質的研究と比較しながら、Gries (2012) らによって Behavioral Profiles という手法が提案されてから研究の進んでいる語の多義性について妥当な分析方法を模索する。	
1655	1720	講評			

2017年3月28日(火)

930	950	土村 成美 大阪大学(院)	Agatha Christie 作品の統計的文体分析	Agatha Christie 作品の文体の特徴を、他ミステリー作家との比較を通して明らかにすることを試みる。
950	1010	岩根 久 大阪大学	反ロンサールパンフレットの計量的特徴の再検討	宗教戦争の勃発期に王権擁護・カトリック的立場で書かれたロンサールの論説詩に対抗してプロテスタント詩人達が出版したパンフレット詩の計量的特色について2016年夏の発表で触れたが、さらに充実した資料により再検討する。
1010	1030	上阪 彩香 同志社大学	アンサンブル学習モデルを用いた近世文学作品の著者に関する検討	本発表では、井原西鶴と北条団水のテキストデータを用い、著者による判別を試みる。
1030	1050	三宅 真紀 大阪大学	人工写本 Parzival を利用した校合データ様式と異読距離の考察: 新約聖書写本比較に向けて	本発表は、人工写本 Parzival を利用して、写本の読みの違いに基づいた異読距離行列による系統樹推定について報告する。
休憩 (10分)				
1100	1120	高橋 新 大阪大学(非)	英語翻訳聖書間の計量的スタイル分析手法の考察—「ヨハネによる福音書」の分析を通して—	本研究では、Covington et al (2015)が「マルコによる福音書」の英語翻訳間の分析をする際に用いた計量的スタイル分析手法を援用し、「ヨハネによる福音書」の英語翻訳間分析を試みる。
1120	1130	藤原 いずみ 大阪大学(院)	宮沢賢治の経年的な文体の変化・計量的な分析を用いて—	宮沢賢治の経年的な文体の変化を計量的な分析を用いて捉え、執筆時期が不明確な作品について推測が可能か試みる。
1130	1150	川口 恵子 芝浦工業大学	工学系学術論文中の不定人称代名詞 one の使用について	異なる年代に出版された工学系学術誌2誌中の論文で使われていた不定人称代名詞 one について、頻度、出現箇所、文脈の観点より報告する。
1150	1210	石川 有香 名古屋工業大学	学校教科書に見るジェンダー表象—量的研究と質的研究の融合—	学習指導要領を踏まえて、学校教科書では、性役割を助長する表現は避けられているとされる。本発表では、量的分析と質的分析を組み合わせ、現行の学校教科書を調査する。
昼食 (50分)				
1300	1320	黒田 絢香 大阪大学(院)	小説テキストの計量的分析—アーサー・コナン・ドイルの作品から	計量的な分析手法を用いて、アーサー・コナン・ドイルの作品をジャンルごとに比較することを試みる。
1320	1340	小林 雄一郎 東洋大学	多変量データの可視化手法の比較	多変量データの可視化手法のうち、対応分析、階層型クラスター分析、ヒートマップ分析を取り上げ、各々の手法の長所と短所を検討し、よりよいと思われる方法を紹介する。
1340	1400	今尾 康裕 大阪大学	構文解析を利用した英語コロケーション分析の可能性	これまでのコロケーション研究で行われてきた、ある語の前後一定の範囲に現れる語を共起語として統計処理を利用した分析と、構文解析を利用した文法的に関係のある語のコロケーションの分析を比較検討する。
1400	1420	田畑 智司 大阪大学	The Semantic Universe of Classic Fiction	英国小説の文体を史的・通時的視点から記述分析するために編纂した参照コーパス ORCHIDS (Osaka Reference Corpus for Historical/Diachronic Stylistics)を構成するテキストに、確率論的トピック推定モデルを適用することにより、classic fiction の'semantic universe'を視覚化する。LLRや $\chi^2$ 乗検定、U検定など、典型的な key-word detection の手法とこのモデルの違いは、生起が infrequent な項目、つまり、それ単体では統計解析しづらい語彙項目であっても、任意の数のトピックに集約して扱うことができること、そして、トピック間の関係や、トピックと個々のテキストとの関係を視覚的に把握することを助けてくれる点にある。
1420	1440	講評		
1440	1445	閉会		